ジュリアード弦楽四重奏団
2023年日本ツアー
「カヴァティーナ」
来日直前インタビュー

実に 5 年ぶりにジュリアード弦楽四重奏団が来日します。テーマは「カヴァティーナ」。ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第 13 番の第 5 楽章として名高い、不朽の名作「カヴァティーナ」と、ジュリアード弦楽四重奏団のために書かれたドイツの気鋭ヴィトマンによる新作「カヴァティーナ」の日本初演を予定しています。来日を1か月後に控えたメンバーからメッセージが届きました。

Q1： ヴィトマンによる委嘱曲の魅力や聴きどころを教えてください。

ヴィトマンが作曲した弦楽四重奏曲には、ベートーヴェンの楽曲でももっとも重要な曲のひとつである、弦楽四重奏曲第 13 番に影響を受けて作曲した曲が2曲あります。3 楽章から成る第 8 番はベートーヴェンの奇抜な音楽言語に影響を受けたようで、とても軽妙で楽しい曲調です。一方、第 10 番の緩徐楽章はベートーヴェンのカヴァティーナで受けた深い感情を写し出した作品になっています。今回のプログラムは、いかに偉大で音楽的なインスピレーションが時代を超越して継承されているかということを感じていただける良いプログラムではないかと思います。彼らが作り出すものには、世代から世代だけではなく世紀も超えてその創造に関わった人の非常に人間的なアイデアや感情が受け継がれているのです。

Q2: 昨年の世界初演、またはヨーロッパ初演でのお客さんのリアクションはどうでしたか？

2022 年秋の 2 つの弦楽四重奏曲の世界＆ニューヨーク初演は、聴衆の大きな熱狂に包まれ大盛会でした。 第 10 番「カヴァティーナ」のヨーロッパでの初演も大変好評でした。第 8 番はまだヨーロッパではまだ演奏されていません。

Q3: ジュリアード弦楽四重奏団（以下、JSQ）にとってのベートーヴェンとは？

ベートーヴェンは人々から広く愛されている作曲家です。彼の音楽は私たちのレパートリーの核心的な存在であり、私たちの音楽的教材、また弦楽四重奏曲を演奏する情熱そのものです。シェイクスピアと同様、人間の本性や私たちを駆り立てる感情についてのベートーヴェンの解釈は、今でも力強く現代に受け継がれています。私たち JSQ にとって、ベートーヴェンは創造性、発明、劇的な力と美しさの模範となっています。彼の音楽はあらゆる人に何かを提供し、常に想像力を掻き立ててくれるものです。

Q4: 今回のプログラム名である「カヴァティーナ」に込めた想いをお聞かせください？
カヴァティーナは非常に特別な音楽です。ベートーヴェンの弦楽四重奏曲 作品 130 のこの歌心に満ちた楽章は、弦楽四重奏作品の中で最も短いものの、しかし力強い作品の 1 つです。ベートーヴェンはどのようにして、これほどまでにコンパクトな形式で、こんなにも胸を打つ美しい音楽を生み出すことができたのでしょうか？ それは、私たちがこの曲を演奏するために座るたびに興味をそそられる問です。カヴァティーナを聴くと、毎回感動を覚えます。 きっと、長調の中で最も悲しい曲でしょう。そして、ベートーヴェンの「カヴァティーナ」は何世代にも渡ってたくさんの人を魅了してきた曲として、ボイジャー計画のミッションとして無人惑星探査機ボイジャーに搭載された“ゴールデン・レコード”の最後に収録されているんですよ。

Q5: ジュリード・サウンドを一言で表すと？
誠心誠意!!

Q6: これまでの日本公演で印象に残っていることはありますか？
日本は素晴らしい思い出に満ち溢れています。おいしい日本料理、美しい環境、フレンドリーな人々！ しかし、日本での一番の思い出は、やはり華やかで活気に満ちた日本のコンサートホールです。そこで演奏できるのは毎回本当に嬉しく、わたしたちにとっての最大の喜びなのです。

Q7: 日本で楽しみにしていることは何ですか？
皆様とお会いできること、そして、ベートーヴェンとヴィトマンを同じ空間で共有できることをとても楽しみにしています！